



「どうぞお座り下さい」
「電車やバスでこのような微笑ましい譲り合いを目にする機会、誰にだって一度はあるはず。」

そのような機会に気構えることなく、身近に助け合える人達がいってくれることで共生社会が成り立っています。多様性が問われる現代において、日本の人口7.4%の方々が障がいをお持ちだと言われていますが、分け隔てなく心遣いができる人が多いのは宮城県人の特徴だと誇りに思います。社会生活において「働け」というのが基盤にあるのは言うまでもありません。しかしながら障がいをお持ちの方は、まずは「職」ではなく「職場」探しから「これがしたい」「は二の次だ」という話をよく耳にします。

7.4%?

日建リース工業 鈴木健太郎さん

探さないと見つからないアウェイな職場から、誰もが知っているホームのような環境、そして叶えたい夢が見出せる職場を身近に、「はーとふる農園」は一般就労を目指す障がいをお持ちの方への新しい選択肢となります。耕作放棄地を利用して土地の持続可につながることで、子供達へ託す未来がおぼけのように見えない、怖いものではなく、差別なく調和が取れ、陽が差し込む未来こそが目指すゴール。SDGsの真逆は断絶なのかも知れませんが、ですが我々は世界で一番に絆が大事であることを知っています。SDGsの実現には一人ひとりが当事者になる必要があります、誰かを思う一日の7.4%が幸せを生む。この表現が私の活動宣言です。



わたしのSDGs活動宣言

こんな活動につながっています!

はーとふる農園名取グランドオープンに向け、現在20名の皆さまに戦力として就農いただき、毎日仲間が増える喜びを肌で感じています。新しい働き方をより多くの方々に届けたいです!



今日より、ちょっといい、明日へ!

Jump!

お客様とSDGs視点で会話をすると本質的な課題・要望が見えてきました。社内実践紹介や7月開催の“脱炭素セミナー”など、課題解決に役立つご支援を行ってまいります。



皆さんは、仕事にどこくらい「SDGs」を意識していますか?

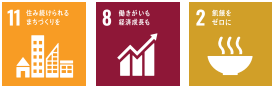
私は約2年間の妊娠・出産を経て職場復帰をした2022年5月、衝撃を受けました。社会を取り巻く環境が変化し、SDGsに対する認識が大きく変わっていたのです。それまでは、興味・関心を持っている一部の人が積極的に取り組んでいると思っていたSDGs。今では、企業・個人それぞれが課題意識を持ち「ジブンゴト」として取り組まなければならないものとして、広く認知されてきています。

当社も同じです。2022年3月、国内外グループ会社向けに実施したアンケートで、97.7%もの社員が「SDGsと自身

SDGsを「ジブンゴト」に

リコージャパン 工藤千穂さん

の業務のつながりを感じている」と回答。営業活動にSDGs視点を盛り込むことで、提案の質がグッと上がり、ただの「モノ売り」ではなく、企業の経営課題を解決する「コト売り」へ変化が進みました。仕事の中でSDGsを感じることで、自然と普段の生活の中でも意識するようになります。「節電する」「資源を無駄にしない」など当たり前のごとですが、「意識をする」ことが大切だと実感しました。これからは、次世代の人たちと共に取り組むことが必要になりますので、まずは息子と娘と一緒にゴミの分別から始めてみます。その積み重ねが子供達の明るい未来につながることを願っています。



SDGs(持続可能な開発目標)を軸に企業や個人が連携し、より豊かな地域づくりを目指すプロジェクトです。SDGs活動を推進する人材「みやぎSDGsアンバサダー」を養成するなど、2021年から河北新報社が運営しています。

賛同企業 募集中!!



よろしくお願ひします

[申し込み・問い合わせ]
河北新報社営業局
TEL / 022-211-1318
MAIL / koukoku@po.kahoku.co.jp

